



公益社団法人

日本語教育学会

2017年度日本語教育学会秋季大会

2017年11月25日(土)・11月26日(日)
朱鷺メッセ(新潟県新潟市)

次世代を育てる日本語教育

公益社団法人日本語教育学会は、日本語教育を通じて、人の成長や豊かな社会づくりに貢献することを使命としています。子どもも大人も、日本語を母語とする人も第二言語である人も、すべての人がそれぞれに必要な学びの機会を得て、自分らしく自信を持って生きていける社会の実現のために、教育や研究、社会的活動等、様々な活動を展開していきます。今回の大会では、日本語を母語としない子ども達に焦点を当て考えていくこととしました。彼らは日本語を含め、様々なことを学び、いずれ次代を担う人々の一員となっていきます。この社会をよりよいものにつくっていく主体となる「次世代」の育成のために、日本語教育は何をすべきなのでしょう。

大会初日の午前、社会啓発委員会主催により、『ひと・まち・しごと』創生を支えることばの教育—次世代を育てる日本語教育からの発信—と題したシンポジウムを特別プログラムとして実施します。ここでの事例紹介や問題提起などを皮切りに、今後、どのような環境作りが求められるのか、将来を見据えた検討を行い、日本語教育の在り方を多面的に見直す機会としたいと思います。

公益社団法人日本語教育学会会長 石井恵理子

目 次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
特別プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	13
交流ひろば	16
地域発信企画	18
会場平面図	19
会場への交通案内	21

◆障がいがあるなど、大会参加にあたってなんらかの配慮を要する場合は、2017年10月13日（金）までに下記へご相談ください。座席の確保や手話通訳・ノートテイカーの同行に係る費用の一部補助など可能な範囲で対応いたします。ただし、ご相談の内容によっては対応できない場合もございます。また、期日までにご相談がない場合は対応できかねます。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費：【事前登録※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員（学生以外）3,500 円
 - 会員（学生証をお持ちの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】一律 5,000 円
- ◆懇親会費：【事前登録※お支払い時に手数料がかかります】
 - 一律 3,000 円
- ◆事前登録期間：2017年10月16日（月）～11月15日（水）
- ◆問合先：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp（前日まで）
090-1999-3315（当日のみ）

今大会では、新潟県および公益財団法人新潟観光コンベンション協会への開催補助金の申請にあたり、参加者名等の報告が義務付けられています。ご登録いただいた個人情報は、本申請における実績報告のために使用させていただきます。

◆大会日程◆

* 印のイベントの概要は、13～15ページをご覧ください。

11月25日(土)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
		10:00-12:00 2階：メインホールB		12:10- 2階：小 会議室 203-204	13:00- 4階：国 際会議室	14:00-15:30 4階：国際会議室 2階：メインホールA、 メインホールB	15:45-17:15 4階：国際会議室 2階：メインホールA、 メインホールB		17:30-19:00 佐渡汽船ターミナル (2階連絡通路より)	
		特別プログラム (無料)		*わか ばさん	開会式	パネルセッション 第1部	パネルセッション 第2部		懇親会	
						13:45-15:15 2階：中会議室 201	15:30-17:00 2階：中会議室 201			
						交流ひろば 第1部	交流ひろば 第2部			
						12:00-17:00 2階：メインホールホワイエ / 4階：国際会議場ホワイエ				
						受付 *わかば・コンシエルジュ (12:00-14:45) / 賛助会員出展ブース				

11月26日(日)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
		9:30-12:00 4階：国際会議室 / 2階：メインホールA、メインホールB / 3階：中会議室 301		12:10-12:50 4階：国際 会議室	13:30-16:40 4階：国際会議室 / 2階：メインホールA、メインホールB / 3階：中会議室 301					
		口頭発表 午前の部 (各発表30分)		*研究倫理 セミナー	口頭発表 午後の部 (各発表30分)					
			10:50-12:20 2階：中会議室 201	12:10-13:20 2階：小会議室 202	12:40-14:10 2階：中会議室 201	14:30-16:00 2階：中会議室 201				
			ポスター発表 第1部	ポスター発表 第2部	ポスター発表 第3部					
	9:00-11:00 3階：中会議室 302			12:10-13:20 2階：小会議室 203-204						
	代議員懇談会			*地域発信企画 (無料)						
				*ぶらさだわかば						
				8:45-15:00 2階：メインホールホワイエ / 4階：国際会議場ホワイエ						
				受付 *わかば・コンシエルジュ (9:00-13:30) / 賛助会員出展ブース						

シンポジウム

「ひと・まち・しごと」創生を支えることばの教育 —一次世代を育てる日本語教育からの発信—

地方都市では、次世代育成が大きな課題となっていますが、多様な言語文化背景をもつ外国人の子どもや青年たちにもその地域を拓く担い手となることが期待されます。

その実現には、子どもたちの学びと青年たちの社会参加を地域社会がどのように支えるかが問題となります。つまり、外国人住民が地域社会の一員として働き、子育てをする環境を創ること、そして、子どもたちが学習に参加し、青年が社会に参画する場を創ることです。

クロエ・ヴィアート氏、佐々木香織氏、羽賀友信氏には、こうした課題について、ご経験をもとにお話ししていただきます。また、言語・文化の多様性を地域創生の資源とするには市民性の視点が重要です。

藤原孝章氏には、多文化共生における市民性教育の意味についてご提案いただきます。

最後に、地域の「ひと、まち、しごと」創りに対し、日本語教育がどのような役割を果たし得るか、話し合います。

パネリスト：

「複数言語・文化環境での子育て」

クロエ・ヴィアート氏（順天堂大学フランス語講師）

「母語支援『りてらこや新潟』の子どもたち」

佐々木香織氏（母語支援「りてらこや新潟」代表）

「長岡市の外国人住民との地域づくり・人づくり」

羽賀友信氏（長岡市国際交流センターセンター長）

「多文化化する社会の市民性教育」

藤原孝章氏（同志社女子大学教授）

進 行：

足立祐子氏（新潟大学准教授）

コーディネーター：

齋藤ひろみ、岡本能里子、嶋田和子

（公益社団法人日本語教育学会社会啓発委員）

本シンポジウムは、JSPS 科研費 17HP0002 の助成を受けたものです。

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第1会場	第2会場	第3会場
4階 国際会議室 司会：才田いずみ (東北大学)	2階 メインホール A 司会：宇佐美洋 (東京大学)	2階 メインホール B 司会：西口光一 (大阪大学)
① 文章理解過程における日本語学習者の多義語の意味把握—文脈的手がかりを用いて— 石黒圭 (国立国語研究所) 烏日哲 (同) 劉金鳳 (中国無錫職業技術学院) 布施悠子 (国立国語研究所)	② 日本語教師教育・教師養成のエピステモロジーの多角的考察—研究や実践を超えていく日本語教育者像— 嶋津百代 (関西大学) 神吉宇一 (武蔵野大学) 北出慶子 (立命館大学)	③ 日本語教育における公共性の意味と課題 細川英雄 (言語文化教育研究所) 牛窪隆太 (関西学院大学) 三代純平 (武蔵野美術大学) 市嶋典子 (秋田大学)

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第1会場	第2会場	第3会場
4階 国際会議室 司会：因京子 (日本赤十字九州国際看護大学)	2階 メインホール A 司会：遠山千佳 (立命館大学)	2階 メインホール B 司会：西谷まり (一橋大学)
④ 学部段階の日本語教育と理工系専門教育との効果的な連携—数学教育・物理教育とのコラボ授業事例から— 太田亨 (金沢大学) 佐藤尚子 (千葉大学) 菊池和徳 (大阪大学) 藤田清士 (同) 村岡貴子 (同)	⑤ 日米豪韓における「会話データ分析」の研究成果と教育現場への活かし方を探る—文献調査とインタビュー調査をもとに— 中井陽子 (東京外国語大学) 大場美和子 (昭和女子大学) 宮崎七湖 (新潟県立大学) 尹智鉉 (早稲田大学)	⑥ 「地域日本語教師」養成のためのプログラム開発と講座実施から見えてきたこと—「ともに社会をつくる仲間」という視点から— 嶋田和子 (アクラス日本語教育研究所) 坂本勝信 (常葉大学) 内山夕輝 (浜松国際交流協会) 白皓 (南山大学大学院生)

口頭発表

午前の部

[9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

第 1 会場

4 階 国際会議室
司会：中河和子
(トヤマ・ヤポニカ)

第 2 会場

2 階 メインホール A
司会：酒井順一郎
(九州産業大学)

9:30 ~ 10:00

①

地域日本語教室における外国人技能実習生の日本語習得の継続的動機づけ

小林正 (京都外国語大学大学院生)

⑤

日本語の教室における学習者の自発的情報提供—第二言語としての日本語学習者の相互行為能力という視点から—

佐野真弓 (関西学院大学大学院生)

10:10 ~ 10:40

②

神奈川県の一都市における「特別の教育課程」編成の取り組み—DLA アセスメント導入による外国人児童生徒の言語能力把握—

宮崎幸江 (上智大学短期大学部)

⑥

日本語研究者・日本語教育関係者にとっての「現代日本社会の『多言語』」化とは何か—「日本語研究・日本語教育文献データベース」を利用した経年的な考察—

岡田祥平 (新潟大学)

10:50 ~ 11:20

③

官学民の連携による「公共圏」の創造—互恵的な親子参加型イベントの実践報告—

福村真紀子 (早稲田大学大学院生)
三代純平 (武蔵野美術大学)

⑦

社会問題の中から「発見する」問題とは—日本語教育実践において考える—

新井久容 (早稲田大学)

11:30 ~ 12:00

④

継続的に支援に参加した地域の母語支援者の学び—ライフストーリーによる事例研究—

高梨宏子 (東海大学)

⑧

生態学的アプローチから見る学習環境生成過程—アフォードする関係性と参加—

齋藤智美 (早稲田大学)

口頭発表

午前の部

[9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

9:30 ~ 10:00

10:10 ~ 10:40

10:50 ~ 11:20

11:30 ~ 12:00

第3会場

2階 メインホール B
司会：俵山雄司
(名古屋大学)

⑨

中級・上級レベルの日本語学習者
にとってのシテシマウー意見と説明を
述べるテキストの用例を中心にー

宮部真由美 (一橋大学)

⑩

中国の初級日本語教科書における
「ダロウ」の扱いについてー日本語母
語話者自然会話コーパスと比較してー

徐文輝 (金沢大学大学院生)

⑪

敬語の丁寧語化現象についてー「て
あげる」の新用法を中心にー

佐藤陽二 (研究社)

⑫

「産出のための文法」から見たボイ
ス表現ー受身、使役、自他の対応を中
心にー

庵功雄 (一橋大学)

第4会場

3階 中会議室 301
司会：服部明子
(三重大学)

⑬

地方私立大学における留学生の就
労支援を考えるーキャリア形成プロセ
スの考察からー

山本晋也 (徳山大学)

⑭

ビジネス日本語教育に対するグロー
バル社会化のインパクトービジネス日
本語の定義の再考からの一考ー

栗飯原志宣 (ベトナム・日越大学)

⑮

日本語学校生の学習動機と自己形
成の関係ー混合研究法を用いてー

岡葉子 (東京外国語大学)

⑯

首都圏に在住する語学教師の日本
語学習動機に関するー考察ー英語母
語話者と非英語母語話者の比較を中
心にー

神定いずみ (目白大学大学院修了生)

口頭発表

午後の部

[13:30 ~ 16:40(各 30 分)]

第 1 会場

4 階 国際会議室

司会：牛窪隆太（関西学院大学）
伊藤秀明（筑波大学）

13:30 ~ 14:00

⑰

日本語教育学研究におけるインタビュー手法の諸相—学会誌『日本語教育』から見たインタビュー手法の変遷と動向—

朴在恩（一橋大学大学院生）

14:10 ~ 14:40

⑱

コトバと社会と人をつなぐための日本語教育—演劇づくりを取り入れた実践を通して—

松永典子（九州大学）

14:50 ~ 15:20

⑲

同僚教師により行われた実践研究の場を教師個人はどのように意味づけたか

小畑美奈恵（早稲田大学大学院生）

15:30 ~ 16:00

⑳

日本文化理解を深めるプロジェクトワークの実践から見えたこと—タイ人日本語教師・日本人ボランティア双方の視点から—

中尾有岐（国際交流基金）
二瓶知子（同）

16:10 ~ 16:40

㉑

教員養成学部における日本語教育の授業効果分析—リライト文の分析から—

大塚容子（岐阜聖徳学園大学）
中島葉子（同）

第 2 会場

2 階 メインホール A

司会：金田智子（学習院大学）
原瑞穂（上越教育大学）

㉒

学習者のルーブリックの理解度と有効性に対する評価—レポート作成における教師の役割—

安田励子（早稲田大学）
山同丹々子（同）
伊藤奈津美（同）
高橋雅子（同）

㉓

IRT 系モデルと Readability による日本語作文の定量的分析—大学教員による評価とコンピュータによる自動評価の比較—

伊集院郁子（東京外国語大学）
李在鎬（早稲田大学）
野口裕之（名古屋大学）
小森和子（明治大学）
奥切恵（聖心女子大学）

㉔

反転授業に対する教師の評価と意識の変容

手塚まゆ子（関西大学）
古川智樹（同）

㉕

中国人日本語学習者が書いた意見文の構成の可視化—一文レベルの機能・形式段落と段落間の関係を中心に—

肖宇彤（筑波大学大学院生）

㉖

韓国語を母語とする上級日本語学習者の読みの特徴—日本語母語話者との比較によるケース・スタディー—

李榮（神田外語大学）
山方純子（同）

口頭発表

午後の部

[13:30 ~ 16:40(各 30 分)]

第 3 会場

2 階 メインホール B

司会：福岡昌子（三重大学）
足立祐子（新潟大学）

13:30 ~ 14:00

②7

母語話者のコミュニケーション方略と
訂正フィードバックにタスクの種類が
与える影響—初級レベルにおけるケー
ススタディー—

加藤伸彦（立命館大学）

14:10 ~ 14:40

②8

レポート活動における日本語学習者
の意識—ドイツ人学習者と台湾人学習
者の事例分析から—松本陽子（東京福祉大学）
手島利恵（早稲田大学）

14:50 ~ 15:20

②9

ベトナム語を母語とする日本語学習
者による固有名詞の意味理解—文脈
の手がかりに着目して—

Nguyen Thi Thanh Thuy（国立国語研究所）

15:30 ~ 16:00

③0

コミュニケーション上のブレイクダウ
ンを引き起こす要因について—トルコ
人日本語学習者の場合—

Seda DEDEOGLU（名古屋外国語大学大学院生）

16:10 ~ 16:40

③1

メタ言語表現の機能は講義理解の
手がかりとなり得るか—ノートテイキ
ングと理解テストの結果から—毛利貴美（早稲田大学）
古川智樹（関西大学）
中井好男（同志社大学）

第 4 会場

3 階 中会議室 301

司会：水野晴美
（国際日本語普及協会）

③2

基本形容詞の類義語辞書モデルの
検討—「小さい」を例として—

高原真理（岡山大学）

③3

初級日本語教科書での副詞提示に
ついて—日本語学習者会話コーパスに
おける副詞の使用実態から—

本廣田鶴子（日本大学大学院研究生）

③4

中上級日本語教科書に現れた「い
いえ」系応答詞—初級日本語教科書に
おける扱い、自然会話と比較して—

野口芙美（お茶の水女子大学大学院生）

③5

地域日本語ボランティアに関する—
考察—「国際交流のための草の根カウ
ンセラー」として備えるには—

中井延美（明海大学）

ポスター発表 第1部 [10:50 ~ 12:20 (90分)]

会場

2階 中会議室 201

①

人工知能の仕組みを利用した学習者作文評価システム「jWriter」—I-JASを利用した試み—

李在鎬 (早稲田大学)
長谷部陽一郎 (同志社大学)
迫田久美子 (広島大学)

②

口頭運用能力向上をめざす教室活動—地域の日本語教室の実践記録から—

足立祐子 (新潟大学)
松岡洋子 (岩手大学)

③

ディベートを用いた技能統合的ライティングの実践と課題

小野塚若菜 (ベネッセ教育総合研究所)

④

すぐに日本語を使うことが必要な初級学習者を教える教師は、どのような工夫をしているか—公開されている実践の報告から—

上原由美子 (国際交流基金)

⑤

日本語学習者の学習継続決定の要因—地域多読活動の観察記録とインタビューより—

門井美奈子 (早稲田大学大学院生)
前川紘子 (同)

⑥

アカデミックな場面におけるプレゼンテーションを学習するための映像教材の開発

仁科浩美 (山形大学)

⑦

交換留学生の講義理解に関する—考察—M-GTAを用いた理解構築のプロセスの分析から—

中井好男 (同志社大学)
古川智樹 (関西大学)
毛利貴美 (早稲田大学)

⑧

アカデミック・ライティングにおける論証技術習得の課題

中村かおり (拓殖大学)
近藤裕子 (大正大学)
向井留実子 (東京大学)

⑨

一般映像作品の日本語教育素材としての難易度を決定する要因の分析—アニメーション3作品の視聴実験による量的・質的分析をもとに—

臼井直也 (デジタルハリウッド大学)
清水美帆 (国際交流基金)

⑩

引用を学ぶ基礎段階での学部留学生への指導—学術記事からの遡り型授業設計の提案—

大島弥生 (東京海洋大学)

⑪

間違えやすい漢字の誤用訂正システム

小川耀一郎 (長岡技術科学大学学生)
山本和英 (長岡技術科学大学)

ポスター発表 第2部 [12:40 ~ 14:10 (90分)]

会場

2階 中会議室 201

⑫

中学学齢期の JSL 生徒を対象にした教科につなぐための日本語総合教科書の開発

志村ゆかり (東京経済大学)
志賀玲子 (一橋大学)
武一美 (早稲田大学)
樋口万喜子 (横浜国立大学)
宮部真由美 (一橋大学)
永田晶子 (イーストウエスト日本語学校)

⑬

韓国語の品詞接続による「ゆれ」—助詞 e (에)・eul (을) に注目して—

梅林佑美 (京都外国語大学大学院生)

⑭

中国人日本語ナ、ラ、タ、ダ行音混同の研究—福州方言話者を対象として—

呉琪 (神戸大学大学院生)

⑮

日中対照漢字語データベースの開発と応用

松下達彦 (東京大学)
陳夢夏 (一橋大学大学院生)
王雪竹 (同)
陳林柯 (同)

⑯

シャドーイング時の音韻・意味処理に及ぼす作動記憶容量と材料要因の影響—2文シャドーイング課題を用いた実験的検討—

韓曉 (中国・東南大学)
柳本大地 (広島大学)

⑰

日本語母語話者と日本語学習者にとってわかりやすいカタカナ語の言い換え表現とその評価

小野正樹 (筑波大学)
守時なぎさ (スロベニア・リュブリャナ大学)
山下悠貴乃 (国際交流基金)
田村直子 (ドイツ・ボン大学)

⑱

中国語を母語とする上級日本語学習者における聴解時のメモ行為の効果—作動記憶容量とメモの使用言語を操作した実験的検討—

徐暢 (広島大学大学院生)
費曉東 (中国・北京外国語大学)

⑲

中等教育日本語初学者向けアプリ『エリンと挑戦!にほんごテスト』の開発

夷石寿賀子 (国際交流基金)

⑳

自然科学系非漢字圏初級日本語学習者の漢字学習過程の考察—正誤判断時の自発的空書と眼球運動の観点から—

大北葉子 (順天堂大学)

㉑

日中対照漢字二字熟語データベースの構築と語彙特性の分析に関する研究

小森和子 (明治大学)
早川杏子 (関西学院大学)
李在鎬 (早稲田大学)
玉岡賀津雄 (名古屋大学)

㉒

ティーチャー・トークにおける「まあ」の使用—教科書発話には見られない日本語教師の不規則発話—

藤田裕一郎 (朝日大学)
立部文崇 (徳山大学)

ポスター発表 第3部〔14:30～16:00（90分）〕

会場

2階 中会議室 201

②③

B2（上級）レベルの課題遂行をめざした教材開発—新たな教材像模索の試み—

大船ちさと（国際交流基金）
篠崎摂子（同）
清水まさ子（同）

②⑦

地域の日本語教室における支援者の意識—香川県での日本語学習者と支援者への調査から—

山下直子（香川大学）
畑ゆかり（穴吹ビジネスカレッジ）

③①

「公共性」を生み出す言語教育とは何か—二つの教育実践の営みから—

佐藤正則（山野美容芸術短期大学）
福村真紀子（早稲田大学大学院生）
細川英雄（言語文化教育研究所）
尾辻恵美（豪州・シドニー工科大学）

②④

「移動・越境・つながり」を考える—海外の日本語教育実習生の事例から—

トムソン木下千尋（豪州・ニューサウスウェールズ大学）
福井なざさ（同）

②⑧

海外日本語教育普及政策の評価に関する実態調査—外務省に焦点をあてて—

坪田珠里（京都外国語大学大学院生）

③②

学習者コーパスの構築に関するケーススタディー調査実施とデータ整備のプロセスの問題点—

迫田久美子（広島大学）
佐々木藍子（国立国語研究所）
須賀和香子（同）
細井陽子（同）

②⑤

依頼メールの社会言語能力に「構成」が関わるか—日本人事務職員への調査を通して—

坂本勝信（常葉大学）
山下浩一（同）

②⑨

多読教材の文章難易度に関する考察—段階別多読用教材と旧日本語能力試験の統計的な対応づけの試み—

前川紘子（早稲田大学大学院生）
李在鎬（早稲田大学）

③③

高等教育機関における日本語初級前半コースのあり方を探る—インタビュー調査結果からの一考察—

佐野香織（早稲田大学）
齋藤智美（同）
鄭在喜（同）
吉田好美（同）

②⑥

動機付けを目的とした「アニメ・マンガの日本語」オンラインコースの制作と運用

武田素子（国際交流基金）
北口信幸（同）
大西薫（同）

③⑩

留学生のための基礎的専門連語の分野比較—経済・物理・化学・数学を対象に—

小宮千鶴子（早稲田大学）

同時開催イベント

わかば・コンシェルジュ

〔11月25日（土）12:00～14:45、26日（日）9:00～13:30〕

会場：2階 ホワイエ（大会受付横）

主催：公益社団法人日本語教育学会チャレンジ支援委員会

大会に参加してみて、わからないことや聞いてみたいことがありましたら、「わかば・コンシェルジュ」にお越しください。「どこでどんな発表をしていますか」「〇〇に興味があるんですが、どの発表を聞きに行ったらいいでしょうか」「これからこんな研究をしようと思っていますが、どれが参考になるでしょうか。おすすめのコースを教えてください」など、大会プログラムに関する素朴な疑問質問にお答えいたします。「わかばさんいらっしやい」と連動し、「わかばさんいらっしやい」のチェックリストをコンプリートされた方にステッカーを進呈いたします。

また、他分野がご専門でこれから初めて日本語教育に関わるという方からの「日本語教育はどんなことをやっていますか」という質問や「日本語教育を始めることになったんですが、どのようなしたらいいかわかりません」などの悩みをお持ちの方の相談にも可能な限り対応いたします。

2日目（11月26日）は、「ぶらさ da わかば」の申し込み受付も行います。黄色いハッピを着たスタッフがお待ちしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

わかばさんいらっしやい

〔11月25日（土）12:10～12:55〕

会場：2階 小会議室 203-204

主催：公益社団法人日本語教育学会チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。

わかばさんが研究大会に参加するときは、「どんな人が参加してるんだろう？」「一人で大丈夫かな？」「どこへ行ったらいいんだろう？」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。学会のセンパイたちもみんなそんな経験をしてきました。

そんなわかばさんたちのために、「わかばさんいらっしやい」では、大会のしくみや聞きに行く発表の選び方、その他いろいろ、研究大会の楽しみ方をわかりやすくご説明します。もちろん、「こんな基本的なこと、今さら聞いてもいいかな…」という隠れわかばさんも大歓迎ですよ。

「わかばさんいらっしやい」は食べ物・飲み物持参OK！ランチを取りながら、わかばさんどうしのネットワークも作りましょう。きっともっと大会が楽しくなるはずです。

同時開催イベント

交流ひろば

〔11月25日（土）13:45～15:15／15:30～17:00〕

会場：2階 中会議室 201

主催：公益社団法人日本語教育学会支部活動委員会

2017年度に新たに事業を始めた支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では、出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることが目的とした企画です。

交流ひろばへの出展は、審査を経た発表ではありません。開発段階の教材や萌芽的な研究の紹介もあります。これらの紹介を聞いて「私ならこうする」と提案したり、「これ、今度の授業でやってみてもいい?」「うん、その結果教えて」と実践を共有しあったり、活発な交流が生まれることを期待しています。

今年度から始まる企画です。ぜひ、一度足を運んで意見・情報交換に参加してみてください。

* 出展の詳細は、16・17ページをご覧ください。

ぶらさ da わかば

〔11月26日（日）12:10～13:20〕

会場：2階 小会議室 203-204 会場

主催：公益社団法人日本語教育学会チャレンジ支援委員会

この学会に集うだけでも「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。「わかば」の頃、日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。それが、飛躍につながるきっかけになる可能性もあります。とは言え、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持つたりすることは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。懇親会という機会もありますが、センパイの周りにはたいがい人がいるものです。

そんな「わかば」な人のための企画が、「ぶらさ da わかば」です。日本語教育の世界で皆さんの少し先を歩いているセンパイと、一対一で気楽に話してみませんか。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、夢を語り合ったり、センパイの経験談を聞いたり、自由な空間です。どうぞ奮ってご参加ください。当日の午前9時から大会受付に併設する「わかば・コンシェルジュ」で申込を受け付けます。参加するセンパイのプロフィールなど、詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

同時開催イベント

地域発信企画

* 無料でご参加いただけます。

「多文化共生のための学びと交流の拠点づくり—次世代を育てる日本語教育—」

〔11月26日（日）12:10～13:20〕

会場：2階 小会議室 202・ホワイエ

主催：公益社団法人日本語教育学会支部活動委員会

本年度からこれまでの「研究集会」に代わり、新たに「支部集会・活動」が各地でスタートしました。秋季大会においても、現地の日本語教育関係者が中心となって情報を発信する企画として新たに「地域発信企画」をスタートさせます！

秋季大会が開催される地域では、日本語教育に関わるどのような実践や活動が行われているのでしょうか。それらについて、現地の日本語教育に関わる方々がブースでポスター、資料、実物などを通して紹介します。そして、開催地からの発信に耳を傾け、直接相互に意見を交換することによって、自分の実践や活動、地域を振り返る、新たな発見や刺激を得る、参加者同士の新しいつながりを創る場を提供します。

今回の新潟では、COC+事業【地（知）の拠点大学による地方創生推進事業】（新潟大学）の一環として、昨年外国につながる子どもの日本語学習支援関係者の協議会が設立されました。各地域での支援についての活動内容だけでなくそれぞれの地域のシステム作りについても紹介し、皆様との情報交換を期待しています。ぜひご参加ください！

* 出展の詳細は、18ページをご覧ください。

研究倫理セミナー：研究とその指導に必須の注意事項

〔11月26日（日）12:10～12:50〕

会場：4階 国際会議室

主催：公益社団法人日本語教育学会調査研究推進委員会

昨今の研究倫理に関する問題意識を共有し、日本語教育学の一層の進展に資するため、調査研究の際に留意すべき研究倫理や学生指導の際の留意点について会員の意識化を促すことを目的とした企画です。

まず、調査研究のためのデータ収集、学会発表、論文作成・投稿などにおける研究倫理について情報提供します。次に、学部・大学院生の指導者の立場にある教員が指導の際に留意すべき点、ハラスメントが起こる危険性などについて問題提起します。

これらの情報提供をもとに、研究倫理、および、学生指導の際の留意点について、参加者全体で意見交換を行いたいと思います。具体的な事例を紹介しながら議論したいと思いますので、論文や研究発表を考える学生さん、日本語現職教員の皆さんのほか、学部・大学院生の指導者の方々などの積極的なご参加をお待ちしています。

前半【13：45～15：15】

会場担当:衣川隆生（支部活動委員会委員）

①介護福祉士候補者のための介護専門用語学習支援ウェブサイト「かいごのご!」

中川健司（横浜国立大学），布尾勝一郎（佐賀大学），野村愛（首都大学東京）

介護福祉士候補者の介護用語学習は、主に施設配置後に自律学習の形で行われます。そこで、出展者は、学習手段の提供に加え、候補者の学習設計や学習管理の機能を有する、介護用語学習支援ウェブサイト「かいごのご!」を開発しました。当日は、実際にウェブサイトを使用させていただいて、意見交換が行えればと考えています。

②学習者ペアによる再話活動

小河原義朗（東北大学）

初級を終えたばかりの中級前半レベルの読解クラスで、同じ素材を読んだ学習者をペアにして、読んで理解した内容を話す再話活動を試みました。興味のある方はぜひお越しください。

③電子教材作成アプリ「Finger Board」の使い方とクラスでの使用例の紹介

久我 瞳（名古屋外国語大学日本語インスティテュート）

電子教材作成アプリ「Finger Board」は、簡単なタッチ操作だけでインタラクティブな電子教材を作れるアプリです。本ブースでは実際に初級・中級の授業で電子教材を用いた時の実践例をご紹介します。それらの例を見ながら、日本語教育における ICT の活用方法を一緒に考えてみませんか。

④日本語教師発話コーパスの作成 一大規模化に向けてー

藤田裕一郎（朝日大学），立部文崇（徳山大学）

私たちは、クラスルームにおける日本語教師発話のコーパスを作成しています。当日は、web 上で公開している本コーパスに触れてもらい、その上で大規模化を目指す本コーパスの仕様について議論したいと考えています。またこの機会を授業内の教師の発話やコーパスに興味がある方とのネットワーク作りできればと思っています。

⑤教員養成大学のグローバル人材育成における留学生教育のあり方

ー教員研修留学生日本語教育プログラムでの地域貢献の実践からー

和泉元千春（奈良教育大学）

学校教育現場への留学生派遣などの地域貢献や大学のグローバル人材育成に対する留学生の貢献への期待は今後もますます高まると予想されます。大学のグローバル人材育成や地域貢献における留学生の日本語日本文化教育の位置づけやあり方について興味を持っている方、ぜひ意見交換をしましょう。

⑥研究室コミュニケーションのための入門期日本語教育用教材の開発

山路奈保子（室蘭工業大学），因京子（日本赤十字九州国際看護大学）

英語で研究活動を行う前提で来日した留学生・外国人研究者で、日本語学習のための時間の確保が難しい学習者を対象とした日本語会話入門コース用教材の開発を行っています。同様の学習者を対象とした教育に携わる方のご意見をいただき、情報共有ができればと考えています。

⑦学部留学生対象の日本語科目と初年次教育科目 ーライティング教育をどうするかー

中島祥子（鹿児島大学）

学士課程における初年次教育科目（必修）には、口頭発表やレポート作成など、学部留学生に対する日本語科目と重なる学習項目があります。学士課程における「質の保証」をふまえ、学部留学生必修の日本語科目をどのようにデザインし、実践しているのか、同じような授業を担当している方々と情報交換を行いたいと考えています。

後半【15：30～17：00】

会場担当：中島祥子（支部活動委員会委員）

①オノマトペの学習を支援するeラーニング教材の開発

ーブレンディッドラーニングによる学習を想定してー

竜野征一郎（北海学園大学大学院生）、森 良太（同）

私たちは現在、日本語能力試験を受験する留学生を対象に、eラーニング教材と対面授業を組み合わせたブレンディッドラーニングを用いた語彙指導を想定したeラーニング教材の開発に取り組んでいます。今回はオノマトペの学習に関する教材を紹介し、効果的なeラーニング教材の開発について参加者のみなさまと意見交換をしたいと考えています。

②学習目標の意識化を目的とした自己紹介活動ー中上級を対象とした会話クラスにおいてー

衣川隆生（名古屋大学）

中上級の留学生を対象とした会話クラスで学習目標の意識化を目的として、自分のライフプランと、そのプランにおける日本語の関わりについて紹介し合う活動を試みました。学習目標を具体化させていくためにはどんな実践の工夫が考えられるかについて、皆さんと意見交換ができればと思います。

③初級日本語学習用 m-learning アプリの開発

黒田史彦（首都大学東京）、黄美蘭（同）

スマートフォンなどで初級日本語を学ぶ学習アプリの開発に取り組んでいます。現在までに完成したコンテンツを皆さんに試用していただき、多くのコメントやご意見をいただきたいと願っています。ぜひ、展示ブースまでお越しください。

④オンラインでつながる日本語教師の輪

大隅紀子（東京大学）、近藤裕美（元国際交流基金マドリッド日本文化センター）

私たちはzoomというオンライン会議システムを使って、世界の日本語教師の集まる場を作っています。日ごろのお悩み相談や、読書会、イベント企画など、国や地域を越えた交流を行っています。このzoomは、URLをワンクリックするだけで参加でき、ITが苦手な方でも気軽に参加できるシステムです。日ごろ会えないような人ともオンラインでつながってみませんか。

⑤漫画を使った研修の可能性ー日本語教室の撮影データに基づく教材の活用ー

金田智子（学習院大学）、森篤嗣（京都外国語大学）、岩田一成（聖心女子大学）、文野峯子（人間環境大学名誉教授）

教育実践について意見交換する際、どのような方法やリソースが効果的でしょうか。私たちは「漫画」が有効と考え、複数の日本語教室の協力を得て撮影した授業の分析結果を基に、漫画教材を作ってみました。実際に使いながら、これまでの使用例を紹介し、使い方の可能性や課題についてみなさんと意見交換をしたいと思います。

⑥短期集中型初期適応クラス「サバイバルコース」の実践とその展開

高橋志野（愛媛大学）

私の所属機関では、毎学期初めに大学独自の2週間の集中コースを行い、日本語学習経験0の留学生が生活上最低限必要な日本語を話したり聞いたりできるようになることを目指しています。今回は現在の教材等を見ていただきながら、いろいろな方と情報共有や意見交換をしたいと思います。興味のある方はぜひお越しください。

多文化共生のための学びと交流の拠点づくり ―次世代を育てる日本語教育―

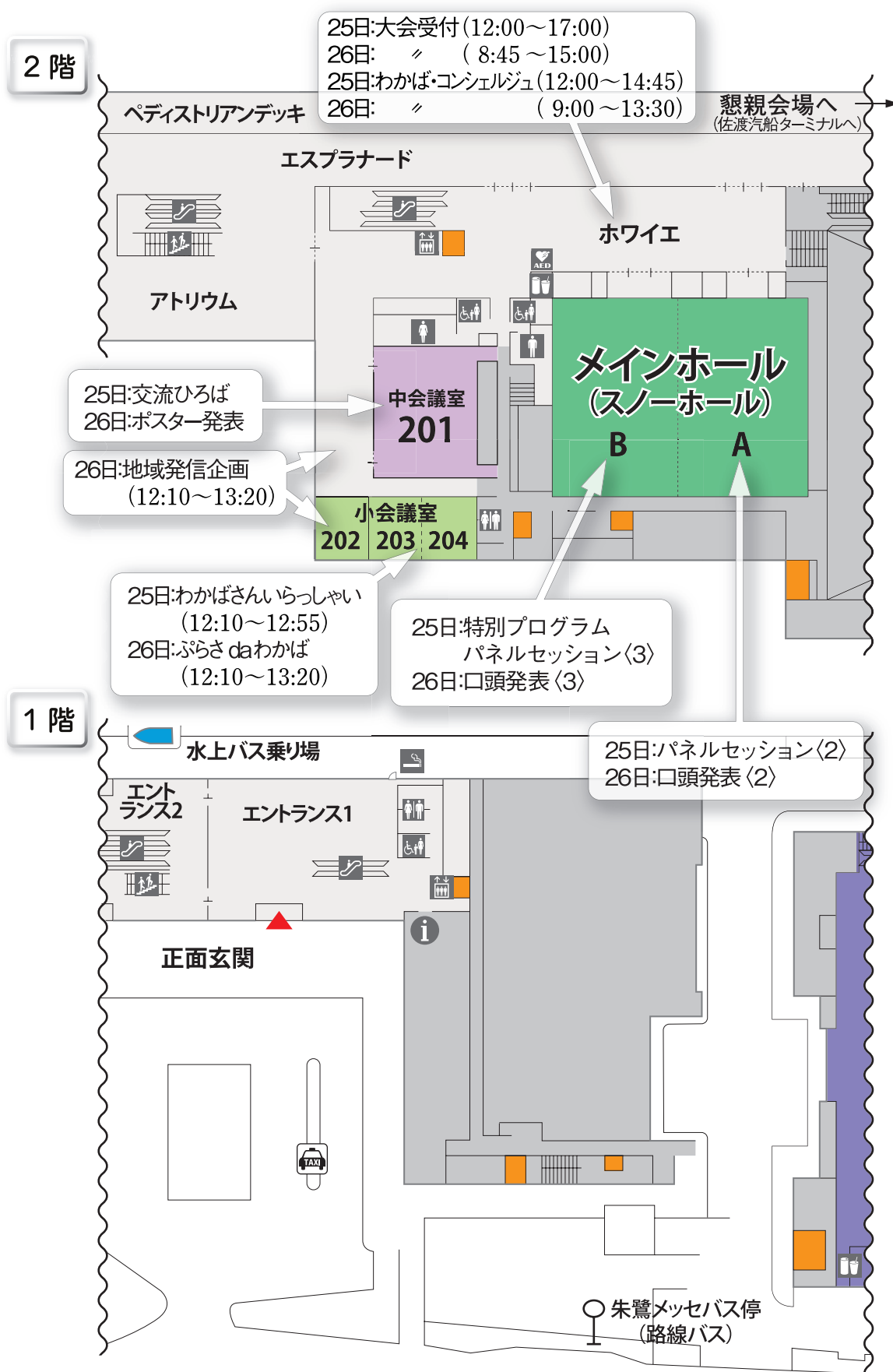
第 1 部 [12:10 ～ 12:45 (35 分)]

ブース 1	ブース 2	ブース 3
2 階 小会議室 202	2 階 小会議室 202	2 階 小会議室 202 前 ホワイエ
①上越地域の取組み 【上越教育大学と上越国際交流協会の活動】	③中越地域の取組み 【長岡市国際交流センター とにほんご広場の活動】	⑤多文化子どもネット協議 会の取組み 【事務局としての役割】

第 2 部 [12:45 ～ 13:20 (35 分)]

ブース 1	ブース 2	ブース 3
2 階 小会議室 202	2 階 小会議室 202	2 階 小会議室 202 前 ホワイエ
②中越地域の取組み 【(公財) 柏崎地域国際化協会の活動】	④下越地域の取組み 【りてやこや新潟とにこぼる クラブの活動】	⑥多文化子どもネット協議 会の取組み 【COC+ 事業がつなぐ地 域】

※参加費：無料，事前申込不要。直接会場へお越しください。
本プログラムは，大会参加者以外でもどなたでもご参加いただけます。



4 階



3 階



会場案内

【会場所在地】

新潟県新潟市中央区万代島6番1号

【全国から新潟県新潟市まで】

朱鷺メッセ ウェブサイトのご案内をご参照ください。

<https://www.tokimesse.com/visitor/access/index.html>



【最寄り駅・空港から会場まで】

●JR「新潟駅」から

新潟交通 路線バス(佐渡汽船行)…約15分「朱鷺メッセ」下車

時刻表 <http://www.niigata-kotsu.co.jp/noriai/kisen.shtml>

タクシー…約5分

徒歩…約25分

●新潟空港から

リムジンバス…約25分「新潟駅」下車(南口)…徒歩…(万代口)

※万代口からのアクセスは、上記のJR「新潟駅」からを参照。

タクシー…約20分

◎所要時間は、おおよその目安として記載してあります。

■タクシー会社

第一タクシー(株) TEL025-284-0123

はとタクシー(株) TEL025-287-1121

万代タクシー(株) TEL025-247-5211

都タクシー(株) TEL025-283-1139